

越冬トマトにおける新たな天敵「タバコカスミカメ」 を主幹にした総合的病害虫防除体系の実証

要約

トマト定植直後にタバコカスミカメ 0.5 頭/株をトマトに直接放飼することによって、タバコカスミカメは順調に定着及び増殖し、コナジラミ類やトマト黄化葉巻病はほとんど発生しなかった。調査期間中の殺虫剤の散布回数及び剤数は、前作と比べてほぼ半減することができ、大幅な省力化・軽労化が可能となった。

○ 展示のねらい

新たな生物農薬や病害虫抵抗性品種等、化学農薬に依存しない防除技術を体系的に導入し、殺虫剤の散布回数を低減した上で、病害虫を効果的に防除し、かつ、多収・高品質な生産をモデル的に展示することで、新たな防除体系の普及定着を促進する。

1 具体的目標（収量、労働時間等）

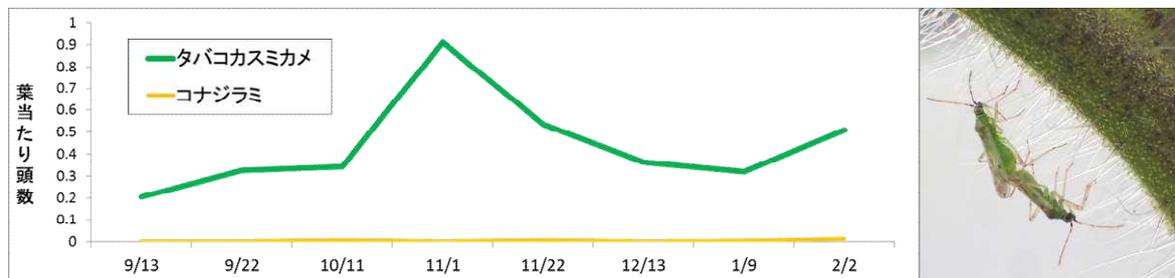
殺虫剤の散布回数を担当農家慣行防除から半減した上で、トマト黄化葉巻病の発生株数を担当農家の平年発生株数と同等以下に抑え、かつ、平年同等以上のトマトの収量を得る。

2 供試面積 26 a

3 試験の概要

- (1) 植生管理：バーバナやクレオメ等の天敵温存植物をハウス内に栽植する。
- (2) 天敵農薬：タバコカスミカメ製剤（アグリ総研提供）をトマトに放飼する。
- (3) 化学農薬の使用制限：天敵に影響の小さい選択性農薬及び気門封鎖剤を使用する。
- (4) 病害虫抵抗性品種：トマト黄化葉巻病抵抗性品種を導入する。

○ 主な成果



タバコカスミカメは、放飼直後からトマト上で順調に定着及び増殖し、ピーク時は1葉当たり0.9頭、発生株率90%に達した。コナジラミ類の発生は、常に葉当たり0.01頭以下と低密度で推移し、トマト黄化葉巻病の発生は無かった。

8月21日から2月12日までの殺虫剤の散布回数は10回（前作18回）、使用剤数は13剤（前作23剤）といずれも半減程度となり、大幅な省力化と農薬削減が実現した。

○ 今後の方向性

展示ほで得られた成果及び知見を基に、「下都賀版タバコカスミカメ利用技術マニュアル（仮称）」作成し、講習会等で活用することで、本技術の普及推進を図る。普及に当たっては、従来の防除技術と大きく考え方を変える必要があることから、技術に対する生産者の十分な理解と、天敵及び病害虫の発生状況に応じた臨機応変な対応が必要となる。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：壬生町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315